

このマニュアルでは、真空管を搭載し、最新の回路設計により極めて少ない消費電力での駆動を実現したTDP(CTP-3)プリアンプの機能についてご説明させていただきます。正しい操作法をご理解頂き、末永くご愛用下さい。

はじめにお読みください

△警告(ご使用上の注意)

- 真空管の特性上、電源投入後(エンドピン・ジャックにプラグインするか、フロントパネルのSTANDBYスイッチを押す)約20秒間出力されません。あらかじめご了承下さい。
- COOL TUBEコントロールを時計回り(右回り)に操作し真空管の駆動率を上げて行くと、VOLUMEコントロールの設定に関わらず、音質の変化とともに音量が上がって行きます。ベストなサウンド設定を行うには、VOLUMEコントロールと併せて音質、音量を調節して下さい。
- COOL TUBEコントロールとLOW/MID/HIGHのコントロールと共に極端に増加させた場合、強いピッキングなどでは回路の特性上歪みを生じる場合があります。この点にご留意いただき、プレイスタイルに合わせたサウンド設定を行って下さい。
- 出力が大き過ぎる場合、プリアンプ側での歪みが発生していない状態でも、接続機器側で入力オーバーとなり歪みを生じる場合があります。接続する外部機器側に入力調整のできる機能がある場合は、プリアンプ側のVOLUMEコントロールと併せて、歪みのない設定を行って下さい。また、入力レベルが固定された機器に対してはこれに合わせてプリアンプのVOLUMEコントロールを下げて歪みが生じないように設定して下さい。
- リアパネルのAUX端子に外部ピックアップを増設していない場合、ノイズ発生の原因となりますので必ずAUX PUコントロールの0の位置に設定して下さい。
- 真空管は割れやすいガラスのため、衝撃などにより破損する恐れがありますので、お取り扱いにはご注意下さい。また破損した時は割れたガラスで手を切る事がないように注意して下さい。
- 電池をセットする際には、ギター本体と外部機器との接続がない事を確認してから、裏面に記載された“電池交換の手順”に従って行ってください。外部機器と接続したまま電池交換をおこなうとボップノイズが発生し、接続先の外部機器を破損させる恐れがあります。
- 電池を交換する際は必ず4個同時に取り替える事で、新しいものと古いものを混在させないようにしてください。また、マンガン電池とアルカリ電池など、種類の異なるものを混ぜて使用しないで下さい。極端に電池寿命が短くなるばかりでなく、電池の漏れや破裂により、プリアンプ本体を破損する場合があります。
- 故障の原因になりますので電池の+、-極を間違えないように電池ボックスにセットしてください。
- 電池交換の際、プリアンプの上部ユニットを取り外した場合、内側にゴミなどの異物や異常がない事を確認してから再度、装着して下さい。異物や異常がある場合は直ちに使用をやめ、販売店に点検を依頼して下さい。
- プリアンプの上部ユニットを再度装着する際、取り付けがスムーズでない場合は無理に押し込みず、各部を点検し問題のない事を確認してから行って下さい。
- 電池をセットした後、上部ユニットの着脱用ツメに浮きや緩みがなく、確実に本体に固定されているか確認してください。固定されていない場合、チューナーが作動しない、出力されないなど、プリアンプが正常に機能しない恐れがあります。

コントロール機能

フロント・パネル

- COOLTUBE 搭載されている真空管の駆動率を調整します。

0の位置で真空管はサウンドに影響せず、時計回り(右回り)に回していくにつれて駆動率は高くなり10の位置で最大となります。

- STANDBY

真空管を前もって温めておく、スタンバイスイッチです。真空管は電源投入後、温まる一定の時間まで音が出ない為、前もって温めておく事で、ライブなどでギターケーブルを接続した瞬間にサウンドを得たい場合に使用します。

- STANDBY機能 表示LED

STANDBYスイッチを押したままギターケーブルを接続しないでおくと電池を消耗し続けます。(LEDは点灯したままとなります)

ライブなどですぐに音を出したい時にのみ使用し、不要な場合LEDが点灯しないかご確認下さい。

再度、STANDBYスイッチを押すと、LEDが消灯しSTANDBY機能が解除されます。

- LOW

低音域の増減をコントロールします。 $\pm 12\text{dB}$ の範囲で調整可能です。

- MID

中音域の増減をコントロールします。
MID FREQ(ミッド・フリケンシー)で設定した周波数を中心 $\pm 12\text{dB}$ の範囲で調整可能です。

- MID FREQ

MIDコントロールで補正する中音域の周波数を250Hzから5KHzの間で設定できます。アコースティックギターのサウンドで重要なポイントとなる中音域の調整を行います。

- HIGH

高音域の増減をコントロールします。 $\pm 12\text{dB}$ の範囲で調整可能です。

- 真空管搭載部

△ 注意(触らないでください)

- OUTPUT

エンドピン・ジャック出力端子

- PWR

△ 注意(触らないでください)

- GAIN

AUX端子に外部ピックアップを増設した場合の
入力ゲインを調整します。

時計回り(右回り)に向かって音量が増加します。

- AUX

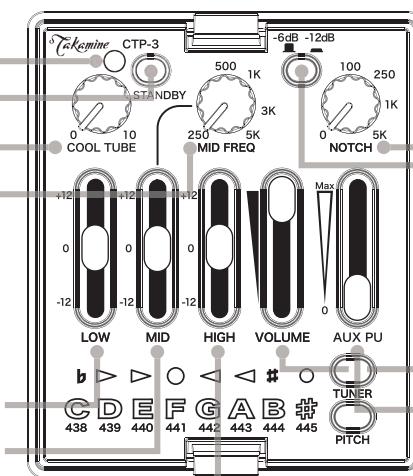
増設ピックアップ入力端子
コンタクト・ピエゾ・ピックアップか
マグネット・ピックアップを任意で増設することができます。

- PU

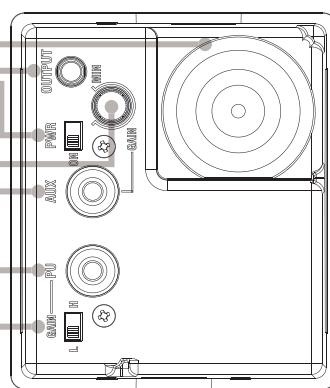
タカミネ・オリジナル・バランスティック・ピックアップ入力端子

- GAIN

タカミネ・オリジナル・バランスティック・ピックアップの
スタイル採用/ナイロン弦用ゲイン切り替えスイッチ
工場出荷時に設定されています。



リア・パネル



オペレーション マニュアル

△触らないでください

- CTP-3プリアンプでは、真空管を従来の回路設計とは全く異なる使用方法で採用しております。したがって通常のギターアンプのようにユーザー様ご自身で真空管を交換する事はできません。無理に真空管の抜き差しや交換を行った場合、プリアンプの故障を招くとともに保証の対象外となります。真空管が消耗し音が出なくなったり場合や破損した場合は販売店にご相談下さい。
- プリアンプのリア・パネルに設置されているPWRスイッチは、製品製造時の検査等に使用されるもので使用上の機能はないため、触らないでください。間違えて切り替えてしまった場合、左側(ONの刻印)にセットし直して下さい。
- プリアンプの上部ユニットと本体側ユニットを接続するコネクターには絶対に手を触れないで下さい。汚損による通電不良など故障の原因になります。また誤った通電などにより故障がありますので、金属など導電性のある物質の接触は避けて下さい。

△注意

- ギター本体のエンドピン・ジャックへギター・ケーブルを接続したままにしておくと、プリアンプの電源が入ったままの状態となるため、電池が消耗していきます。エレ・アコとして使用しない場合、必ずエンドピン・ジャックからギター・ケーブルを抜いてください。
- プリアンプ・フロントパネルに装備されたSTANDBYスイッチを押したまま放置すると、電池を消耗し続けます。STANDBYスイッチ左横のLEDが点灯している場合この機能は作動していますので、解除するにはもう一度スイッチを押して消灯させて下さい。
- 上部ユニットを破損又は紛失した場合、この部分のみのバーツ供給は用意されておりません。プリアンプ式の有償交換となりますので、取扱いにはご注意ください。
- 電池の漏れによるプリアンプの破損は、保証期間中であっても有償対応となります。使用する電池は信頼ある製品をお選び頂き、長期間お使いにならない場合は外しておく事をお勧めします。

● NOTCH

ボリュームコントロール直前の信号に対して、0~5KHzの範囲で設定した任意の周波数をカットしハウリングの軽減などに使用します。(AUX PUをご使用の場合ミックス後の信号に効果があります) 左に回し切っている場合、設定がkHzとなる為サウンドには影響しません。

● NOTCH カットレンジ切り替え

NOTCHコントロールの効果の強さを設定します。通常はNOTCHで設定した周波数を-6dBカット、スイッチを押し込むと-12dBカットとなり、より強い効果が得られます。

● VOLUME

全体の音量をコントロールします。(AUX PUを使用している場合、2つのピックアップがミックスされたサウンドの音量をコントロールします)

● AUX PU

リアパネルのAUX入力端子に外部ピックアップを接続した場合、ミックスする音量のコントロールを行います。0の位置では外部ピックアップは全くサウンドに影響せず、スライダーを上げる事でミックスされる量が増加しMaxの位置で最大となります。AUX PUコントロールは、標準搭載されているタカミネ・オリジナル・バランスティック・ピックアップの出力を介して、外部PUの出力をプラスしていくミックス量を調節するもので、2つのPUの出力バランスを調節するものではありません。

△ 注意

リアパネルのAUX端子に外部ピックアップを増設していない場合、ノイズ発生の原因となりますので、必ずAUX PUを0の位置に設定して下さい。

上部ユニット 内面パネル

● AUX EQ MID CUT-THRU

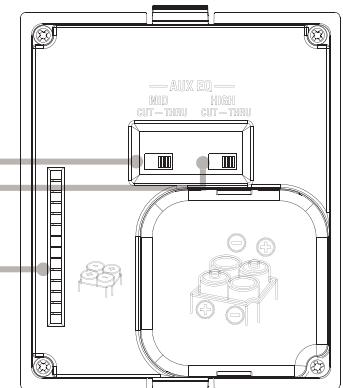
AUX PU入力端子に増設された
ピックアップの中音域をコントロールします。
THRУ(右側)でフラット、CUT(左側)に
セットすると中音域をカットします。

● AUX EQ HIGH CUT-THRU

AUX PU入力端子に増設された
ピックアップの高音域をコントロールします。
THRУ(右側)でフラット、CUT(左側)に
セットすると高音域をカットします。

● 接続コネクター

△ 注意(触らないでください)



電池交換の手順

1. プリアンプ・パネル上下にある上部ユニット着脱用ツメを指で内側に引き寄せると、上部ユニットがわずかに押し出されますので、そのまま引き抜きます。



2. 電池ボックス上部のフタを取り外し、電池を交換します。フタの上面に記載されたイラストを確認し電池の+、-極を間違えないようにセットして下さい。電池ボックスにフタを装着する際、方向を間違えないよう注意して下さい。的確な方向でない場合、無理に押し込むと破損する恐れがあります。



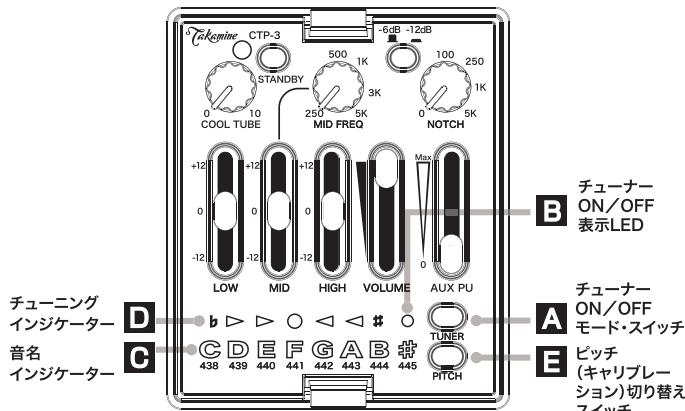
3. 電池交換後、上部ユニットを本体に戻します。内側にゴミなどの異物や異常がないか確認してから上部ユニットを戻して下さい。取り付けがスムーズでない場合、無理に押し込まず各部を点検し問題のないことを確認してから行って下さい。



4. 更に、取り外した上部ユニットを元の方向に合わせ押し込んで取り付けます。スムーズに押し込めない場合、無理に装着せず各部を点検し問題のないことを確認してから行って下さい。上部ユニット装着後、着脱ツメにゆみがなく確実に本体と固定されている事を確認して下さい。



チューナー・ファンクション



△ チューナー電源についてのご注意

アコースティック／エレ・アコどちらでご使用の場合も、チューナーをONにした状態で、5分以上ギターを弾かない（無入力状態）場合、自動的にチューナーがOFFになるオート・パワーオフ機能が搭載されています。この機能は、チューナー使用時の電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐためのもので、自動的にチューナーがOFFになってしまっても故障ではありません。オート・パワーオフ機能は、チューナーのON/OFFにのみ有效で、特にアコースティックとしての

チューナー使用方法

1. AのチューナーON/OFFモード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

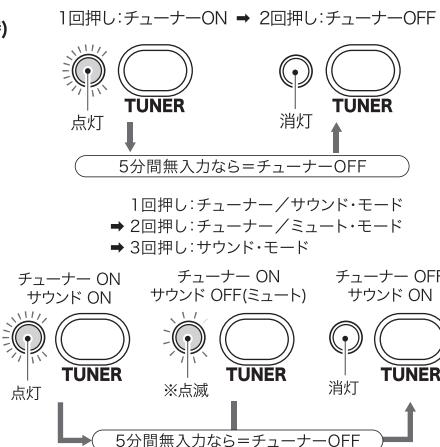
※チューナーON/OFF・モード・スイッチは、ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続しないアコースティックとしての使用時と、ギター・ケーブルを接続しアンプ等を使って再生するエレ・アコとしての使用時では、機能が異なります。

(アコースティックとして使用時)

アコースティックとしてチューナー機能を使用する場合、エンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続する必要はありません。

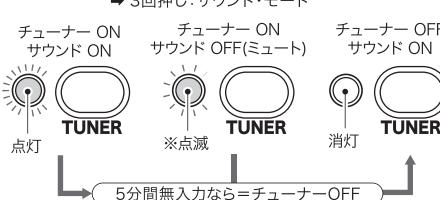
(エレ・アコとして使用時)

ギター本体のエンドピン・ジャックにギター・ケーブルを接続し、エレ・アコとしてご使用の場合、チューニング中の音を出さない“チューナー／ミュートモード”も選択できます。



- 1回押し: チューナーON → 2回押し: チューナーOFF
- 点灯
- 消灯

1回押し: チューナー/サウンド・モード
→ 2回押し: チューナー/ミュート・モード
→ 3回押し: サウンド・モード

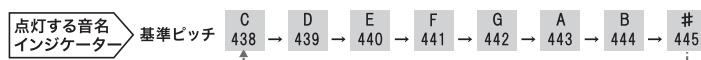


- チューナーON サウンドON
- チューナーON サウンドOFF(ミュート)
- チューナーOFF サウンドON

ピッチ設定(キャリブレーション)の方法

1. AのチューナーON/OFFモード・スイッチをONにし、チューナーを作動させます。

2. ピッチ切り替えスイッチ E を1回押すと、キャリブレーションモードとなり、現在設定されている基準ピッチを示す音名インジケーターが点滅します。
(初期設定はA4=440Hzです。)



A チューナーON/OFFモード・スイッチ

チューナーのON/OFFスイッチとして機能します。エレ・アコとしての使用時には、接続したアンプ等からチューニング中の音を出さない“ミュート”状態も選択できます。

B チューナーON/OFF表示LED

チューナー機能をONにした状態で、このLEDが点灯(ミュート・モードでは点滅)します。
※チューナー使用方法参照

C 音名インジケーター

弦を弾くとその時点での近い音名が点灯表示されます。ピッチ設定を変更する際には、選択した基準ピッチ(438~445)の上の音名が点滅表示されます。

D チューニングインジケーター

チューニングの状態をこのインジケーターが点灯し表示します。
また電池残量の低下をセンターLED(緑色)の点滅で表示します。この表示が現れた場合、すみやかに電池の交換をおこなってください。

E ピッチ(キャリブレーション)切り替えスイッチ

チューナーの基準ピッチを変更したい時、このスイッチで設定します。

ご使用時にチューナー機能のスイッチの切り忘れによる不用意な電池消耗を防止するのに効果的です。エレ・アコとしてご使用の場合もチューナーのオート・パワーオフ機能は有効ですが、プリアンプ電源のON/OFFはエンドピン・ジャックへのギター・ケーブルの抜き差しによってのみ行われますので、ギター・ケーブルの抜き忘れは、電池を消耗する原因となります。以上の点にご注意頂き、電池を不用意に消耗しないようご留意ください。

2. 点灯する音名インジケーターCと、チューニングインジケーターDを見ながらギターの音程を調整します。チューニングしたい音名のインジケーターが表示され、チューニングインジケーター中央の緑色のLEDが点灯したらチューニングが完了です。

■チューニングインジケーター表示



【チューニング時のご注意】

1. 搭載されているチューナーは、高感度に設計されています。そのため弦を強く(あるいは弱く)弾き過ぎた時や、連続してピッキングした時など、最初に入力した音より次に入力された音が大きくなれた場合、正確に表示されないことがあります。より正確にチューニングするためゆっくり弦を弾くことをお勧めします。

2. 周囲の電気機器などから発生する強いハムノイズの影響で、インジケーターが不特定に表示される場合があります。

3. 音名インジケーターが点滅後、再度ピッチ切り替えスイッチを押すごとに、音名インジケーターの点滅位置は1ステップ(1Hz)ずつ移動します。希望する基準ピッチに達したらピッチ切り替えスイッチの操作を止めます。

4. 操作を止めた時点から約2秒後に自動的にチューニング・モードへ戻ります。チューナーON/OFFモード・スイッチAをOFFにしても、設定された基準ピッチは保存されます。エレ・アコとしての使用時も、電池残量が無くなる限りギター・ケーブルの接続プラグの抜き差しによるON/OFFを行っても、設定された基準ピッチは保存されています。

尚、電池の交換時など上部ユニットをプリアンプ本体から引き抜いた場合、ピッチは初期設定440Hzに戻ります。必要に応じて再度設定を行って下さい。